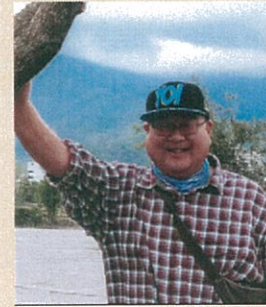


夏から秋に楽しめる山菜狩り 暮らしを支える森林の魅力を感じて

代表取締役 高橋正二 さん

山梨県庁退職後、森林組合の参事を勤め、林業経営の知識を深める。49歳で独立し、「株式会社高橋林業」を設立。次世代にも森林の大切さを伝え、100年後にも残る山林づくりに励んでいる。



様々な顔を持つ森林 水源保全や土砂崩れを防 ぐ役割も

森林に関わる知識から林業の見識を深め、「株式会社高橋林業」を設立した高橋正二さん。

山菜狩りといえば、野いちごや山桜、たんぼほといった様々な命が芽吹く春を想像する方が多いかも知れないが、山歩きのプロでもある高橋さんは、秋でも



楽しむことができるという。例えば、小ぶりの実がたくさんなるサルナシは、キウイフルーツの原種で高い山に登るとよく見かけることができる。表面に毛がないため、皮を剥かずそのまま食べるのが特長だ。山にあるシイタケ菌を培養して改良を重ねて、今では年間を通してシイタケを食べられるようになった。原種は、自然発生したシイタケ菌が元になっている。



ボケという植物の実も採れるので人気の山菜の1つ。ボケの実は、焼酎漬けにすることで、味も良く香りも良い果実酒として楽しむことができる。その一方で、森林は、そうした楽しさばかりを享受してくれるだけでなく、私たちの暮らしを支えてくれていると高橋さんは語る。

「古くから私たちの生活を守っ



てきた「保安林」は、目的ごとに17種類に分かれており、伐採や開発に制限が加えられています。主な目的としては、水源かん養林、土砂流出防備林、防風、防潮などがありますが、特に水源かん養林と土砂流出防備林を合わせると保安林の全体の9割にもほり、最も重要な森林となっています。「保安林」の17種類の内、面積では少ないですが、めずらしい「保安林」があります。一つは、魚つき林。森林があることにより、魚がそこで繁殖し、繁殖に役立つ森林、もう一つが、空港目標林で、飛行機がその森林を目標にして、空港位置を把握する森林など、めずらしい森林もあります。また、葉や枝、根が雨水を蓄えることで地中の水分保有率を一定に保つことができ、土砂崩れの防止などにも役立つています。もし、相模湖の水ガメがなかったら、横浜

などの発展もなかったといっても過言ではないでしょう。そうした森林を管理する林業は「3K（きつい・危険・汚い）」という言葉で表されるほど大変です。林業は資格が30以上もあり、その資格を取るのに10年以上もかかり、山で仕事をすること、は大変なことなんです。資格だけ取るにも大金がかかり、給料も支払わなければならず、また交通費やその他雑費の支払いを加えると二千万円くらいかかってしまいます。他の仕事にこれだけ仕事をするのに必要な資格があるのだろうか？ と私は考えます。それだけの資格を必要とする林業ですが給料が安く、子育てができないと退職していった人たちも大勢います。しかし、資格を取らなければ、その分危険がともないます。「高橋林業」では、夢と希望を持ちながら働きつつ、これからも森林を守り続



株式会社 高橋林業

☎ 042-689-2848 ✉ takahashi-forestry@honey.ocn.ne.jp
📍 神奈川県相模原市緑区牧野8772
http://www.takahashi-forestry.com/

けていきたいと考えています」
こうした言葉からは、高橋さんの森林保護に対する熱しみや覚悟が強くうかがえる。これまでに森林をあまり身近に感じてこなかった方も、山菜狩りや山歩きを通じて触れ合ってみるといいだろう。私たちの暮らしを支えてくれている森林の懐の深さに驚かされるに違いない。

(ライター/宮田泰輔)

私たちの暮らしを支える森林 山菜狩りだけでなく水源保全も

森林に関わる経験から林業の見識を深め、「株式会社高橋林業」を設立した高橋正二さん。ちよつと意外な秋の山菜狩りの楽しみ方やその注意点、そして森林が私たちの生活にもたらす働きについて伺いました。



株式会社高橋林業
代表取締役 高橋正二さん
神奈川県出身。山梨県庁退職後、森林組合の参事を勤め、林業経営の知識を深める。49歳で独立し、「株式会社高橋林業」を設立。

「山菜狩りシーズンといえば春を想像する方が多いかもしれませんが、秋でも楽しめるのはご存じでしょうか。その時期には、標高の高い場所に生息する小ぶりの美しいサルナシをよく見かけます。キウイフルーツの原種で表面に毛がなく、皮を剥かずそのまま食べられるのが特徴です。他にもハシバミやボケ、シイタケなどありますが、特にボケの実は焼酎漬けにすると味も香りも良く、果実酒にしたらとてもいいですよ。その反対に毒のある山菜もあるので細心の注意が必要です。ハシロドコは青々とした葉が一見美味し

そうに見えますが、食べると名前の通り落ち着きが無くなる症状が出るので気を付けて下さい。ところで山に入るための必要な備品についてですが、雨や寒さを凌げる大きめのビニール袋や新聞紙は防寒具などと一緒に持っていくといいでしょう。それに鉛やチョコレート、スポーツ飲料などは非常食としてお忘れなく。そして何よりも雷には気をつけなければいけません。雷は高い所に落ちる性質があるため、なるべく高い木の下には行かないようにして下さい。身の安全を第一に、それに危険に対する警戒心も怠らず山菜狩りを楽しんで下さい」

山はそうした楽しみを与えるだけでなく、私たちの暮らしを支えてくれていると高橋さんは語ります。「古くから私たちの暮らしを支えてくれる「保

安林」は様々な役目があり、伐採や開発に制限が加えられています。主な目的としては水源保全、防風、防潮などがあります。が挙げられます。特に水源保全として、保安林全体の約9割がそれに費やされています。葉や枝、根が雨水を蓄えることで地中の水分保有率を一定に保つことができ、土砂崩れの防止をしてくれます。相模湖近くにある津久井の保安林がもしなかったら、今の横浜や川崎の発展も無かったと言っているでしょう。そうした保安林を管理する林業は「3本きつい・危険・汚い」という言葉どおり大変ですが、次の世代により良い環境を残すために、これからも保安林を守り続けていきたいと考えています」

